**しあわせのペンリレー No.20**

「まなぶ」は、「まねぶ」という「真似る」の意味の古語から来ているという。
結構有名な説らしいが、私は今初めて知った。検索エンジンが出してきた結果を「まね」て、私も一つ学んだことになる。

自分の半生を振り返れば、ありがたいことに「まね」る対象には事欠かなかった。学校の授業は、大好きな地理以外は楽しいだけではなかったが、先生たちのおかげでちゃんと学ぶことができた。部活のバレーボールはへたくそだったけれど、人並みにはレシーブもできるようになった。高校のワンダーフォーゲル部では、山の知識や技術を顧問の先生や先輩から学び、経験を蓄積することができた。大学時代、運良くドイツに語学研修に行くことができたから、日本以外の価値観も学ばせてもらえた。そもそも、私がことばを話せるようになったのは、親が話しかけてくれたからだ。
人との関わりが今よりずっと濃密だった。良くも悪くも…。周囲に恵まれていたとはいえ、「朝まで呑み歩く」なんて悪知恵もまた、人から学ばせてもらったものだ。家族、親せき、地域の大人、友人――。いろんな人びとと関わり合えたからこそ、たくさんの学びを得ることができたのだと今更ながらに思う。

ふと考える。人と人の関係が希薄化している現代社会の中で、こどもたちは、「まね」る対象を見つけられるのだろうか、と。こどもたちに限らない。これから父親や母親になる人も、「まね」る対象に出会えているのだろうか。
先日、少し関わらせてもらった県立みえこどもの城の「こどもマルシェ」では、こどもたちが素敵なアクセサリーを自分たちで考え、作って、来場のこどもたちに販売してくれた。どうやら、おなじみの動画投稿サイトを参考にして作ったらしい。確かに、うまく見つけることができれば、遠い国にいるかもしれない知らない誰かを「まね」て、自分の学びにすることもできる時代である。
でも、それだけでいいのだろうか、と昭和生まれは思う。画面の中を「まね」ることからは、効率的に知識は得られたとしても、感性というか、感覚というか、五感を使って「まね」て学べたときの充足感とか達成感までは得られないのではないだろうか。「まね」た相手がいて、同じ時間、同じ空気の中で、学びを得たことを一緒に喜んでくれるからこそ得られるものがあるはずだ。そして、その充足感、達成感こそが人を作っていくのだという気がする。知識に感性が伴ってこそ、人の「格」が形づくられていくのだ。

こどもたち、そして子を育てる父親たち、母親たちには、効率ばかりを求めず、ぜひとも実体験の中から学びを得てもらいたいと願う。そのために社会教育や地域社会にできることはたくさんあるはずだ。私もその一助になりたい、と心から思う。

パパスマイル四日市　　舘　啓司